

# 日本が世界平和を実現する。

いかに日本ならではの価値を高め「人間の時代＝戦争の時代」を終わらせるか？  
～新しい戦前にしないために～

衆議院議員 長妻昭事務所 作成資料(2025年11月版)

# 戦争は人類の 本能なのか？

## <オキシトシン 人間を戦争に駆り立てる脳内物質>

「人間はとても協力的な生き物だが皮肉にもそれが激しい攻撃性を生み出す」  
「興味深いことにオキシトシンは攻撃性にも関わっていることがわかってきた」  
(オランダ・ライデン大学教授 心理学者 カーステン・デ・ドリュウ Carsten K.W.De Dreu) **Oxytocin promotes human ethnocentrism**

■オキシトシンの光: 絆のホルモンとも呼ばれ、他者への共感、強力性を育む。集団の規模拡大をもたらす文明発達の原動力に

■オキシトシンの影: 守る相手と、そうでない相手を線引きする 仲間を守りたいと思う心から攻撃性を生む

★プロパガンダ等: 相手を非道德的で仲間を脅かす存在と思い込む 見たこともない仲間に対して自分の命をかけてもまもらうとする＝人間は集団のために、自分の命まで投げ出すほどの献身を示す(他の動物にはない)

★飛び道具の進化: リモートで殺戮が可能に 殺してはならないという共感が鈍り攻撃がエスカレート

国境の概念が生まれ戦争が激化 敵対心を高める心の特性

\* 世界最古の記録がある戦争

古代エジプトメギドの戦い(紀元前15世紀)

19世紀までで戦死者数2000万人、その後、この100年で1億人超に

## 戦争の具体的原因は何か？

### <人間の果てない欲望・偏見が戦争を生み出す>

- 奪い合い:領土・資源・食糧・エネルギー等
- 異質を排除:人種・民族・宗教・イデオロギー等
- 心の弱点:名誉、恐怖、勢い

*経済格差、環境問題が戦争の種拡大に拍車*

*農耕牧畜の誕生によって定住と所有が暮らしの基本になり、欲望が刺激*

「人間には本能的な欲求が潜んでいる。憎悪に駆られ、相手を絶滅させようとする欲求が」(アインシュタイン)

# 日本はなぜ戦争を始めた？

## ＜なぜ、日本は勝つ見込みのない 対米戦争を始めたのか？＞

- 政治・外交の上に軍があった シビリアンコントロール・文民統制の欠如(資源・領土確保の狙い)
- 作られた国民の熱狂が制御不能に ナショナリズムをあおりすぎ
- 国際協調を軽視 世界情勢の見誤り 低いインテリジェンス能力
- 陸海軍の予算獲得競争がコントロール不能 国家予算の7割が軍事
- 政党政治の腐敗 軍部の信頼拡大
- 昭和恐慌に政治の無策 農村など国民の格差拡大
- 戦争反対は非国民 同調圧力(空気の力)強まる
- 教育の戦時体制化 皇国の道に則る皇国民の錬成へ

# 世界平和への 道は？ ①

## ＜地球全体が仲間意識を 大きな線引き＞

- 対立より協調した方が利益になる、との意識を共有
- 対立している集団ごとの“線引き”をより拡大して、二つの集団を一つにするナラティブ(物語)を作る
- 顔が見え、息づかいも感じられるような相互理解
- 世界初の和平条約(紀元前13世紀カデシュの戦い 6万人が激突、古代エジプト対ヒッタイト) == ①互いの領土を侵略しない ②両国間の永遠の平和 ③両国の神々による保証
- 「感情への絆」「文化の力」が戦争を無くす(フロイト)
- 地球を脅かす共通の問題に協調して取り組まなければ、それぞれの国での生存率が下がるとの危機の共有

# 世界平和への 道は？ ②

## ■ 仮説1 民主主義の国同士は戦争しない(カント)

非民主主義裁国の政府は、民主主義国の政府に比べ、戦争の犠牲をいとわない傾向があり、戦争のハードルは低くなる(デモクラティック・ピース)

→ **真の民主主義の国同士の戦争は少ない**

◎無理のない形で民主主義を推し進め、成熟した民主主義を世界に広げることが意義がある。それぞれの国には長い統治の歴史があり、強制力を伴う形での民主化には失敗例が多い

\* ロシア・ウクライナ戦争は、民主的平和論が主張する「民主主義国同士は戦争しない」という原則を否定するものではなく、むしろ「権威主義国家は近隣諸国に対して攻撃的になりうる」という側面を強調する事例として認識されている。

## ■ 仮説2 人的交流に勝る安全保障なし

800万人若者交流 例えはエリゼ条約(1963年締結)。戦争が絶えない独仏が友好条約を締結。この条約に基づく若者交流プログラムにより両国800万人以上が交流に参加した。両国首脳は次世代の市民である両国青少年の交流により、将来の紛争を予防する効果があると考えた。

→ **多くの国から人的交流が相互理解と紛争予防に成果を上げているとの報告あり**

◎安全保障上の懸念のある地域でこそ、若者交流を積極的に進めるべき



# 世界平和への 道は？ ③

## ■ 仮説3 抑止力を高めれば戦争は避けられる

**抑止力:** 攻撃の際に発生するコストを高めて敵の行動を躊躇させる懲罰的抑止と、敵に目標達成の見込みがないと判断させて攻撃を断念させる拒否的抑止がある。一定の効力を発揮することも事実だが行き過ぎるとリスクが大きくなる。

**安全保障のジレンマ:** 自国が抑止力として軍事力のレベルを上げれば、相手国が脅威と感じ同様に軍事力を増強する。軍拡競争を生んで、かえって緊張を高め、偶発的な衝突のリスクを増大させるという「安全保障のジレンマ」を引き起こす可能性がある。

★どのような国家も力を相対的に持ちすぎると戦争をする傾向にある。過去の歴史を振り返れば、大きな軍事力を持てば、使いたくなる誘惑にかられてしまう

→抑止力アップがかえってリスクを高めることもある

## ■ 仮説4 世界統一政府を創ることができれば戦争はなくなる

「世界の廃藩置県なくして、人類の平和はない」(尾崎行雄 憲政の父・世界連邦運動協会初代会長)

「新しい世界政府のみが人類を救うであろう」(アーノルド・トインビー)

「EUは世界連邦政府のひな型。これを拡大させていくにはどうしたらよいかを考えてほしい」(稲盛和夫)

- まず国々の利害を調整して一つの政府を創り上げることができるか、という難題。国際連合ですら侵略行為に対して一致結束した行動をとれない今、その道のりは遠いと言わざるを得ない。
- 仮に一つの政府ができた場合、軍隊も一つになるが、その軍隊が暴走した時にどう歯止めをかけるのか等、課題山積。一つの政府ができてクーデターや政権交代における混乱・紛争を防止する仕組みが不可欠。

# 世界平和への 道は？ ④

## ■ 仮説5 心の弱点を克服する取り組みが必要

「憎しみは憎しみによって消え去るものではなく、ただ愛によってのみ消え去るものである」(サンフランシスコ講和会議で日本の分割統治と賠償金請求を否定したセイロン(現スリランカ)代表)

戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。(ユネスコ憲章)

宗教の役割は大きい。一方で宗教が戦争の原因になることもまた事実である。

(参考)「問題が起こった時と同じ思考では問題を解決することはできない」「人間の心自体に問題がある」(アインシュタイン)。この考え方をベースとしてスウェーデンで誕生したのが**心の弱点を克服するIDGs**(内面成長目標)Inner Development Goals - 。5つのカテゴリー、23のスキルで構成。

中核に「つながりを意識する」を据える。「社会の問題が解決しないのは、私たちが分断しているという幻想に囚われているから。実際はすべてが繋がっており、分け隔てできない」と解説する。

◎一人ひとりが心の弱点をまず自覚すること。それを乗り越えるため、一人ひとりが自覚を持って考え、取り組むべき



# 世界平和への 道は？ ＜現状＞

## ＜世界平和を実現するための仕組みと課題＞

■ 国際連合 「われらの一生のうちに2度まで言語に絶する悲哀を人類に与えた戦争の惨害から将来の世代を救うことを決意した」(国連憲章)

- 近年の取り組み SDGs策定、パリ協定(地球温暖化対策の国債枠組み)締結、イランの核開発を制限する国際合意成立
- 国連最大の危機: 侵略国に対する制裁等を実行する安保理常任理事会が役割を果たせず。拒否権を持つ常任理事国(ロシア)によるウクライナへの侵略行為の歯止めとならず。
- トランプ米政権 国連否定: WHO(世界保健機構)・国連人権理事会及びパリ協定、イラン核合意から脱退、国連供出金も大幅削減。

### ■ 核兵器軍縮

- 核兵器禁止条約とNPT6条(\*)を車の両輪として世界から核兵器を低減・廃止する。 (\*) 核不拡散条約(NPT)の締約国に対し核軍縮の「誠実な交渉義務」を課している。これは、自らが保有する核兵器を削減するための努力を誠実に行うという原則。

### ■ 戦争の原因を取り除く取り組み

- 持続可能な開発目標(SDGs): 目的は、貧困を終わらせ、地球環境を守り、すべての人々が平和と豊かさを享受できる世界を実現すること。SDGs17の目標: 1貧困をなくそう 2飢餓をゼロに 3すべての人に健康と福祉を 4質の高い教育をみんなに 5ジェンダー平等を実現しよう 6安全な水とトイレを世界中に 7エネルギーをみんなに。そしてクリーンに 8働きがいも経済成長も 9産業と技術革新の基盤を作ろう 10人や国の不平等をなくそう 11住み続けられるまちづくりを 12つくる責任、つかう責任 13気候変動に具体的な対策を 14海の豊かさを守ろう 15陸の豊かさを守ろう 16平和と公正をすべての人に 17パートナーシップで目標を達成しよう

日本が世界平和実現の先頭に立つための条件  
①戦争の教訓

＜まず、昭和の戦争の教訓を胸に刻み、日本が二度と国策を誤らない方策を確立する＞

■「新しい戦前」とならないために

「戦争は、その姿を現す随分前から始まっているものです。おそらくは人々が口をつぐみ、物申すことをやめたときから」(「暮らしの手帖」編集部)

「抗えない空気」「やましい沈黙」を生じさせないために

- 厳格なシビリアンコントロール 文民統制 外交の下に軍事を置く
- 「国策を誤った」戦争の教訓を明確化し、政府と社会で共有 戦争の記憶を風化させないための不断の取り組み 教育
- 立憲主義、議会制民主主義の確立
- 政府を厳しくチェックする議会やメディアと国民 政府の隠ぺいや虚偽を許さない
- ナショナリズムのあおりすぎによる制御不能を避ける 国際協調の意義の共有 外国人との多文化共生政策
- 政治腐敗を根絶 信頼回復 政治の質を高める
- 世界平和を作り出す先頭に立つとの、力強い意思と外交戦略
- 世界情勢を見誤らない広い視野とインテリジェンス

# 日本が世界平和 実現の先頭に 立つための条件 ②国内基盤

＜まず、日本が安定した国の基盤を確立し、日本ならではの価値観を内外に発信・具現化すること>

- **国の基盤の基本は人間である。日本はあまりにも人へのケアや投資が少ない。**
- **安定した国の基盤を阻むもの：**総中流社会が崩れ格差が拡大し社会の分断が起こっている。給与額は増えている業種もあるが未だ物価を上回る増加でない。物価を上回る給与アップがなされない「失われた30年」を終わらせなければならない。集団同調圧力が強く多様な意見や生き方が抑え込まれている。行き過ぎた自己責任論が人々の新たな挑戦を躊躇させている。生まれる家庭によって、人生が決まりかねない教育格差が深刻化している。人への投資が圧倒的に少ない。企業・団体による巨額な献金・パーティー券購入が予算配分を歪めている。利権にからめとられて構造問題（財政再建・環境問題等）に踏み込めない。
- **安定した日本の基盤を確立する 人からはじまる日本再生**
- **歪んだ分配 から 適切な分配** → 企業利益が適切に給与に回る経済
- **格差放置 から 格差是正** → 富とチャンスが偏らない社会
- **一つの価値 から 多様性** → 同調圧力（空気の力）が強すぎない社会
- **人権軽視 から 人権尊重** → 声を上げやすい社会
- **自給率軽視 から 自給率重視** → 食料・エネルギー等自給率の高い社会
- **先送りする政治 から 決断する政治** → 財政再建等から逃げない政治
- **カネに歪められる政治 まっとうな政治** → 巨額献金によって税金の使途が左右されない政治

★どんな環境にあっても一人ひとりの持ち味が生きる社会を創る

日本が世界平和  
実現の先頭に  
立つための条件  
③外交安保

## <外交・安全保障の基本を整える>

■以下の方針を誠実に実行するための不断の体制整備を行う

外交・安全保障戦略の要諦は、我が国の主権および独立を守り、紛争を未然に防ぎ、我が国の繁栄の基礎を強化することにある。平和主義および国際協調主義に基づき、憲法の専守防衛に徹しつつ、時代の変化に対応した安全保障政策を推進し、責任をもって国民及び領土・領海・領空を守りぬく。

- 日本外交の基本方針(政府)： 日本国憲法が理想として高く掲げている平和国家とは、自らの自由と安全と繁栄を保つのに甘んじることなく、進んで戦争のない世界の創造を目指す国家である。わが外交の窮極の目標は、正にこのような意味における平和国家の理想の実現にある。
- 日本安全保障政策の基本方針(政府)：我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、(1)日本は適切な防衛力の整備に努める(2)日米安全保障体制を堅持する(3)日本を取り巻く国際環境の安定を確保するための外交努力や国際平和協力を推進する

★安全保障政策には「近くは現実的に 遠くは抑制的に 国際貢献は積極的に」の姿勢が求められる

日本が世界平和  
実現の先頭に  
立つための条件  
④弱点是正

■外交・安全保障の弱点(以下の弱点を克服せよ)

- **インテリジェンス能力**: 安全保障環境が厳しさを増している中、未だ日本のインテリジェンス(情報収集)体制は脆弱。世界の情報収集が米国頼みのままでいいのか。専守防衛の国だからこそ、世界で何が起きているかを的確に把握するインテリジェンス能力を大幅に高めなければならない。
- **説明責任が不足**: 日本は外交・安全保障ともに説明責任を十分果たしていると言えない。憲法や専守防衛の観点を踏まえ、できる限り国会を通じて国民に説明するべき。密約も多すぎる上、軍事情勢や装備、部隊の運用について、他の先進国に比べても国民への説明が足りない。
- **国会のチェックが機能せず**: 国会には秘密会で政府の機密情報をチェックする仕組み(情報監視審査会等)を一部整えたが機能していない。
- **縦割り行政**: 外交・安全保障を担う府省庁・部局の連携や情報共有が不十分。縦割りのままで議論が進み両論併記で結論先送りとなり、責任の所在が曖昧になる。



# 日本が世界平和 を実現する道筋 ①原点

## <日本の世界平和取り組みの原点>

### ■ 1956年日本が国連加盟 重光葵外相国連演説

「わが国の今日の政治、経済、文化の実質は、過去1世紀にわたる欧米及びアジア両文明の融合の産物であって、日本はある意味において東西のかけ橋となり得るのであります」→分断が深まる世界で、日本が「東西のかけ橋」としての役割を果たし、世界平和実現の先頭に立つべき

### ■ 日本国憲法前文(抜粋)

われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。

### ■ 憲法9条

1 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又(また)は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

- 当初、連合国軍総司令部(GHQ)案を基にした政府案の条文に「平和」という文言はなく、衆議院審議の過程で追加。
- 速記録によると、法学者出身の鈴木義男・社会党議員が「唯(ただ)戦争をしない、軍備を皆棄(す)てると云(い)うことは、一寸泣言(ちよつとなきごと)のような消極的な印象を与えるから、先(ま)ず平和を愛好するのだと云うことを宣言すべき」と提案し、各委員の賛同を得る。



# 日本が世界平和 を実現する道筋

## ②日本の価値

### <日本ならではの価値一例>

#### ■仏教、神道、儒教、聖徳太子の和の精神

「和をもって尊しとなす」 日本最古の成文法(憲法17条)

「むつまじく人々が話し合いをすることで合意をえよ 合意を得たなら何事も成し遂げられないことはない」

→この世界に存在するあらゆるものが相互に関連しており「自己が生きること」は「他者によって生かされてること」である(谷口照三「和の精神」の歴史的変容とその課題より)

#### ■和敬清寂(人間同士が差別なく本当の心の絆を作る)千利休

秀吉の朝鮮侵攻をいさめ切腹 その子孫 千玄室(元特攻隊員)「一盃(いちわん)からピースフルネスを」と60数か国を歴訪

#### ■mottainai(もったいない)

ワンガリ・マータイ(2004年にノーベル平和賞)は「人、モノ、地球を大切に  
にするもったいない、の最終目標は世界平和 相手を尊重し、限りある資源を有効に使う必要がある」と。

\* 仏教と同じような考え方が日本人の心の深層にあるからこそ、「もったいない  
mottainai」という意識も生まれ、これこそ日本人にとって非常に重要なモラル。  
(河合隼雄)

# 日本が世界平和 を実現する道筋 ③実績

## <これまでの主な日本の取り組み>

### ～さらに効果的に推進すべき政策～

#### ■核兵器軍縮の取り組み

- **核兵器禁止条約**:この条約はICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン ノーベル平和賞受賞)など多くの後押しがあり作成された。ICANの中核メンバーである川崎哲さん(東京中野区出身)の貢献は多大で、唯一の被爆国である日本が果たした役割は大きい。

後に被団協(日本原水爆被害者団体協議会 広島と長崎の被爆者による唯一の全国組織)もノーベル平和賞を受賞した。

→核兵器禁止条約は70か国以上が批准しているが、核兵器保有国や日本をはじめ主要国で批准している国は少ない。前述したが、核兵器禁止条約とNPT6条を車の両輪として段階的に核兵器を低減・廃止のため日本が率先して努力すべき。

- **NPDI(軍縮・不拡散イニシアティブ)**:民主党政権下で、日本が呼びかけ、オーストラリアとも協力して、NPT第6条をテコにして核兵器を減らしていこうという取り組み。12か国参加、現在も毎年、開催
- **国際賢人会議**:日本主導で設立した「核兵器のない世界」の実現に向けて具体的な道筋を議論する枠組み。米ロ英仏中という核兵器国と日本、ドイツ、アルゼンチンなど非核兵器国の双方の有識者らが、それぞれの国の立場を超えて知恵を出し合う場。

# 日本が世界平和 を実現する道筋 ④実績

## ■国連改革

- 未来のための協定:「国連未来サミット」で採択された国際協定 日本がこの協定の策定と実行に積極的に関与

→安全保障理事会(安保理)改革:創設時に比べ加盟国数が4倍に増えたが常任理事国5か国(中国、フランス、ロシア、英国、米国)は創設時のままであり、実効性を高めるために増やすべき。その上で、新たな常任理事国については、拒否権を15年間凍結することをG4(日本、ブラジル、ドイツ、インド)は提案している。

## ■人的交流に勝る安全保障なし(前述)

人は相手国に友人が沢山いればその国と戦争しようとは考えなくなる。

- キャンパス・アジア:民主党政権時に日本が呼びかけスタート。日中韓の若者交流計画。日中韓を軸とした東アジア地域における大学間の人的交流を主とする。合同事務所はソウルに設置。さらに三か国以外にも交流を広げつつある。

■ODA(政府開発援助)、JICA(国際協力機構)、多くの民間NGOはじめ、世界平和を目指し、紛争予防、格差是正等のための支援

■自衛隊の国際貢献:主に国際平和協力活動(PKO)、国際緊急援助活動(災害救援)、海洋安全保障関連活動(海賊対処等)の3つの分野

## ■アフリカ開発支援

- アフリカ開発会議(TICAD):日本主導でスタートし、すでに9回開催。アフリカ自身の課題解決を日本が支える仕組み。

# 日本が世界平和 を実現する道筋 ⑤これから

＜「日本が世界平和を実現する」との力強い意思と戦略を持つ＞

■世界平和実現プロジェクト(仮称):日本が総力をあげる  
国家プロジェクトとして立ち上げる:国内外、官民間わず英知を結集し、  
世界平和実現のイノベーションを バラバラでない統合できる強力な司令塔を

→前述した戦争を起こす心の弱点や原因を取り除くため英知を集め、果敢に実行  
する。日本ならではの価値を高め、必ず世界平和を実現するとの強い意思を持  
つ。

★米中貿易戦争が紛争にエスカレートしないように、その間に位置し、両国と深い  
繋がりのある日本の役割は大きい。日本の「東西かけ橋」としての役割(前述)を  
肝に銘じて真摯に取り組む。

- **ポイント①: ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)憲章の前文(抜粋)の  
実現を目指す。**

前文「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければ  
ならない。相互の風習と生活を知らないことは、世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原  
因であり、しばしば戦争となった」として**相互理解の重要性**を説く。同時に、「すべての人に教育の  
充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、且つ、思想と知識が自由に  
交換されるべきこと」を確保することを目指すと言っている。

- **ポイント②: 戦争を起こさないために強めるべきは国際ルール 違反した国  
は許さない強制力を持つ仕組みをいかに創るか。**
- **ポイント③: 戦争をさせないため①戦争の動機をなくす②戦争の手段をしぼる  
③出口を見つける を踏まえる。**
- **ポイント④: 新技術(AI、無人・ロボット兵器等)はもろ刃の剣 国際ルールを  
早期に確定させ違反には強制力を持って対処する仕組みを創る。**

「この世はおかしいが仕方  
がない」  
→「この世はおかしいが、  
変えられる」へ  
(ICAN 川崎哲)



